

アグリワークポイント AGRIWORKPOINT

米

中干し後の管理と病虫害防除のポイント

農業経営支援課 山村



中干し後の水管理

根張りを良くし、倒伏や秋落ちを防ぐため、中干し後は間断かん水を行います。浅水程度に水を入れ、水が無くなっても1〜2日そのままにし、再び浅水にする作業を繰り返します。

穂肥を施用する場合は、たん水し3日間の止め水で行いましょう。

高温障害対策

日中の気温が35℃、夜温が25℃を超える日が続く場合はかけ流しかん水を行いましょ。

高温障害の対策として、特に出穂後5〜15日に行うのが効果的です。乳白米の発生を抑えるため、夜間通水で水温を下げることも有効です。

病虫害対策

ウンカ類防除（早生：7月下旬、中生・晩生：8月上旬）

長期残効性のある箱施用剤（フルスロットル箱粒剤など）を使用していない場合は、出穂前に防除が必要です。

粒剤…トレボン粒剤 2〜3kg/10a

液剤…エミリアフロアブル 1000倍

※ウンカ類は株元を好むため、薬剤が株元にムラなくかかるよう丁寧に散布しましょう。

カメムシ類防除（1回目…出穂始め（一部の茎に穂が見え始める）、2回目…穂揃期（80%〜90%の茎が出穂した時期）、3回目…前回散布の7〜10日後）

近年、茶色で大型のイネカメムシの被害が増えています。不稔の原因となるほか、玄米の基部を吸汁するため、色彩選別機で除きにくく等級低下の要因となります。不稔対策には出穂直前の防除も重要です。

液剤…スタークル液剤 1000倍

粒剤…スタークル粒剤 3kg/10a

豆つぶ剤…スタークル豆つぶ

250g/10a

フロアブル剤…エクシードフロアブル

2000倍

※粒剤・豆つぶ剤は均一に散布し、散布後7日間は落水しないでください（自然落水は問題無し）。